

獣害防止の柵、

メンテと

維持管理を

どうする？

防護柵はとりあえず補助金で設置できても、あとの維持管理が大事な問題。  
見回り点検、草刈り、修繕費の捻出など、みんなどうやっているのだろうか。



行梅義照さん(左)は元農協職員。現在、水稲1.5ha+山3haで集落では一番大きい稲作農家。多田正一さんは水稲1ha+山9haの経営。ワナ免許を取り2010年、シシ肉販売店「山おやじ」を自宅に開設

# 柵沿いの軽トラ道で 管理ラクラク、 イノシシに人圧・車圧

香川県さぬき市・豊田自治会

文=編集部 写真=大村嘉正

防護柵(ワイヤーメッシュ柵+電気柵)設置の効果はテキメンだった。「ウチはもうイノシシもサルも怖くない」と豪語するのは、豊田集落の農家・多田正一さん(64歳)。近隣集落でイノシシにイネがなぎ倒される田んぼが広がっていても、豊田集落では被害がまったく出ないのだ。

「おかげで隣の集落からは『豊田のイノシシがみんなウチに引越してきたんちゃうか』と苦情を言われたりもするけど、獣害で作付けをあきらめていた1・2haの遊休農地が復活したり、近くの直売所に野菜を持つていく人が増えてきたりして、みんな自信がついてきた」と多田さんは嬉しそうに話す。

## 年をとってもラクに管理できるように

さぬき市の市街地から車で20分ほど、旧大川町豊田集落は、市内では急傾斜地がもつとも多い中山間地域だ。28戸のうち農家は22戸。みんな兼業農家で集落の田畑をすべて合わせても12haほどしかないが、「毎年、米を親戚や知人に送るのが楽しみ」という人が多い。だが、20年前からイノシシの被害が増えてきた。さらにはサルも出現。個人で柵を設置するには費用や労力がかかるし……。

そこで豊田自治会では、集落全域を囲う防護柵を設置することになった。2007年から3年がかりで全長約7kmの柵を設置。動きの中心となったのが、中山間地集落協定代表

の行梅義照さん(63歳)と副代表の有馬義幸さん(67歳)、そして多田さんの「団塊おやじトリオ」だ。

柵にはちょっとした工夫がある。「今はまだいいが、10年後、20年後には我々も集落のみんなも足腰が弱ってくる。柵のメンテや維持管理はラクにできるようにしておきたい」と考えて、柵の横にズーと軽トラが通れるような広い道をつけたのだ。さっそく軽トラで行梅さんに案内してもらうことにした。

## すごいぞ！ 軽トラ道

むらの菩提寺である阿弥陀寺の裏山を上っていくと、やがて雑木が開けて柵が見えてきた。防護柵の両側は、なるほど約3〜5m幅できれいに整備されている。見通しのよい道は、まさに「軽トラ道」。おかげで、山の中心の防護柵の見回り点検もスイスイできる。刈り払い機や補修資材も軽トラに積んでいけるので作業効率も格段に上がったという。

